

未知なるものゝ結び合い

手、村研通信。にのりて郵便りを隔て、
組織に存じています。副主理兼り、両者
を志す者として、年令、地位を越えて、
共にセツサタクマシ合うべきだと存じて
います。そのことにより未知なる番が堅
く結び合い、研究に精進できることにな
れは大成功であると存じます。現在一番
欠けているのは、やはりそのいづれがチ
ムワークであると思ひます。人間の能力
には限界がありましようし、そのいづれ
味不適合を感める必要があると思ひます。
最近O氏から預じた手紙の一部です。
そしてO氏と松とは、通信ののりとの
縁でこの未知なるものゝ堅い結びつきに
その一歩を踏み試しているのです。年令
と違ひます、そして住んでいるところも
急行列車に乗つて一晝夜とか、る程へた
たつてはいます。他りく研究熱心と聞くと
はなれでしよう。それにも拘らずO氏の
々通信に載つた主張、それによりいての
縁の未熟な意見は、それから一ヶ月と
た、なほ間に、現在の研究結果の交換に
なり、剛まし合いの手紙のやりとりにも
で絶縁をみたわけです。今未知なる番が
堅く結び合いなると快い響き持った言
葉でしよう、これだけである。村研通信、
次第次第製は大きいといえるのではな
く、